

実施年月日
20.8.31
富山大学

令和3年度富山大学大学院芸術文化学研究科（修士課程）

一般入試 【前期日程】

入学試験問題

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この試験問題を開いてはいけません。
2. 問題用紙（本文）は3枚、解答用紙は1枚、下書用紙は1枚あります。問題用紙および解答用紙に不備があった場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
4. 受験番号は、解答用紙の指定欄に算用数字で記入してください。
5. 試験終了後、問題用紙および下書用紙は、持ち帰ってください。

令和3年度 富山大学大学院芸術文化学研究科（修士課程）

一般入試【前期日程】

入学試験問題

小論文

次の2つの例文を読んで、後の問に答えなさい。

医師

医師は、自分で医院を開業するか、病院や診療所に勤めるか、働き方は大きく2つに分かれる。病院や診療所で、実際に患者に接して、診断し、治療する医師を臨床医と呼び、研究を行う基礎医学者と区別される。医師になるには、医科大学や大学の医学部（6年間）を修了して、医師国家試験を受験し、医師免許を取った後に、2年以上臨床研修医として働くことが義務づけられている。また、研修医制度は、その報酬も含めて変わりつつある。これまで研修医は、書類の整理など、本来医師の仕事ではないことを先輩医師や教授に押しつけられ、ほとんど臨床技術を学ぶことなく、極端に少ない報酬で働かされていた。そのため、ほかの病院の当直医のアルバイトなどをして、経験がないまま緊急治療に立ち会い、医療事故などが起こったことで、研修医制度の改革が迫られるようになった。

研修医制度を含めて、病院経営への株式会社の参入が検討されるなど、日本の医療現場にも変化が起こりつつある。将来的に、変化がどのくらい進むのかは不明だが、医学部に入り、医師免許を取りさえすればお金持ちになるというような時代はとっくに終わっている。なかには、たとえば美容形成外科のように、依然として高い利益を生む専門分野もあるが、基本的に、医師という職業は、肉体的にも精神的にも非常に負担の大きい仕事である。人間の生命という、もっとも大切なものに関わり、患者から信頼される

ことが前提となるからだ。しかし、当然のことだが、負担が大きく、患者とのコミュニケーションが重要なだけに、その充実感も大きい。医療事故の多発などで、日本の医療に対する批判も多く見られる。今の医療制度の中には、時代状況に合わなくなっている部分があるのも確かだ。しかし、決して日本の医療技術や医師が低レベルになってしまったというわけではなく、むしろ、進歩する過渡期にあるのだという理解のほうが正しい。確かな技術を持ち、新しい知識を吸収しようという学習意欲を忘れず、患者と誠実なコミュニケーションをはかる医師は、時代状況の変化などに関係なく、つねに求められているのである。

音楽タレント

人生の一時期だけポップミュージックシーンで活動する人のこと。アイドルを含む。大きなレコード会社からデビューするメジャーと、独立系の小さなレコード会社からデビューするインディーズの2種類があるが、基本的には大した違いはない。クラシック音楽家やスタジオミュージシャンや歌手には演奏能力や歌唱能力が求められるが、音楽タレントに求められるのは、まったく別の才能だ。その才能を説明するのはむずかしい。極端なことをいうと、日本のポップミュージックシーンでは、音痴でもデビューできて、ヒットすることもあるし、曲が書けなくても、顔が悪くても、身長が低くてスタイルが悪くて、性格が最悪でも、成功し、スターになれる場合もある。もちろん、歌がうまくて、顔がよくて、背が高くスタイルがよくて、性格もよいのだったらそれに越したことはないが、それだけでデビューできたり、スターになれるとは限らない。成功する基準が曖昧で、挑戦するにはリスクが高い仕事。ミュージシャンとか、アーティストなどとも自称する音楽タレントのなかで、音楽だけで生活する人は100人にも満たない。

デビューする方法としては、オーディション、持ち込み、ライブで発掘される、などがある。持ち込みの99%はボツになる。声と曲とルックスが判断基準であり、演奏はそんなに重視されない。だが演奏が非常にうまければスタジオミュージシャンに転向できる可能性もある。運よく音楽タレントとして発掘されても、売れなければ、廃棄処分

となる。デビューして、2年後ないし3年後に、生き延びるか、廃棄処分になるか、プロダクションから判断が下る。生き延びるか廃棄処分かの基準は、レコードの売り上げやライブ動員数。つまり人気があって、プロダクションやレコード会社に利益が出たかどうかで決まる。音楽タレントに必要なのは、音楽的才能のほかに、若者としての、ある種の輝きのようなものだ。「何が何でもスターになってやる」というハングリー精神、「小さいころから異常に人気があった」というような生まれながらのスター性、他人には真似のできない自分だけの世界を表現・パフォーマンスする独自性、などが「輝き」を生む。ほかにやることがないからバンドでもやるか、というような中途半端な動機で音楽タレントを目指しても絶対に成功しない。

村上龍，はまのゆか著『13歳のハローワーク』

幻冬舎，43頁，87頁，2003年より

問 あなたが志望する専門性に準じた具体的な職業や仕事について、前述した2つの例文が紹介しているポイントに基づき、13歳（自由と可能性をもちながらも、人生に対する不安を感じ始める世代）に伝えることを意識して説明しなさい。（800字程度）